

隣り合う片腕

The
traced
line

大塚 聡

川越 健太

杵谷 圭章

ALABORA: Satoshi Otsuka / Kenta Kawagoe / Yoshiaki Mokutani



ALABORAは、大塚聡、川越健太、生谷圭章によって、作品展示をはじめ様々な媒体での発表や、それぞれの制作過程における関心を共有し、実験的な試みをおこなうため、2020年に結成されました。

ALABORA was established in 2020 by Satoshi Otsuka, Kenta Kawagoe and Yoshiaki Mokutani in order to publicize their experimental activities and presentations through media as well as share their interests and activities among them.

目次 Contents

Book A

/List of Works/

隣り合う片腕 The traced line ____ p.2

略歴・作品リスト | CV, List of Works ____ p.4

計測と表象 | 半田滋男 ____ p.14

フロアプラン | Floor plan ____ p.16

Book B

/Installation view/

1F: 01, 05, 07, 11, 16

2F: 02, 03, 04, 06, 08, 09, 10, 12, 13, 14, 15, 17, 18

Photo:

Satoshi Otsuka (02, 07, 08, 14, 16)

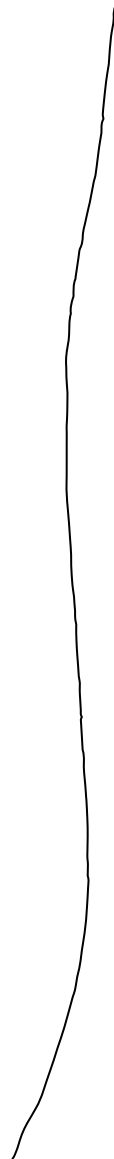
Kenta Kawagoe (01, 03, 04, 06, 09, 11, 12, 13, 15, 18)

Masaru Yanagiba (05, 10, 17)

Book A

/List of Works/

The traced line



クワトロチェントと呼ばれる15世紀イタリアでは、ブラッチオ(braccio)という長さの単位が用いられていた。ブラッチオは「腕」を意味するイタリア語で、この単位は文字通り「腕」の長さを基準としていたためか、例えばフレンツェでは58.32cm、ローマでは78.06cmなど、その長さは用いられる都市ごとに異なっていたという(あるいは肩から手首まで、肩から指先までというように、地域ごとの測定範囲に揺らぎがあったのかもしれない)。

ピエロ・デッラ・フランチェスカは、画面内に厳密な比率関係と幾何学的遠近法を適用した初期の画家として知られているが、彼が用いた単位がこのブラッチオであった^[fig.1]。ピエロの絵画における画面設計と描き込まれた奥行きは、ブラッチオ、つまり「腕」の長さの等倍あるいは等分割の比率によって覆われていたのである⁽¹⁾。

私たちが日常的に用いる長さを測定する単位としてメートル(metre)法が採用されている。この単位系が考案された17世紀には、2秒の間隔を刻む振り子の長さを基準とし、以降流通の過程において厳密さが要求され、測定環境における不確実性を退けるため、現在では光が真空中を伝わる長さとして定義されている。また、メートル法が現在の定義となる途上で、単位の定量性を保存するため「アルシーヴ原器」あるいは「メートル原器」が製造された。それはいわば「定規のための定規」で、18世紀から19世紀にかけて考案された子午線による定義を白金(あるいはイリジウムとの合金)によって鑄造し、実体化したものである。

マルセル・デュシャンに《三つの停止原器》(3 *Standard Stoppages*, 1913-14)という作品がある^[fig.2]。これは、1メートルの長さの3本の縫い糸を、同じく1メートルの高さからカンパスの上に落とし、このとき描かれた曲線をニスで固定し、木型に写し取ったものと言われている⁽²⁾。デュシャンは《三つの停止原器》による曲線を、《大ガラス》をはじめとしたいくつかの作品に用いていた。

このように見てみれば、単位とは何らかの実在する対象を写し取ったものであることがわかる。一定の長さを便宜的に計測可能な数値幅として理解し、それを(最小)基準として設定することが、単位の根本的な原理である。その意味において、単位としての条件は「縫い糸」でも十分に満たされている。単位が単位としての実在性を獲得する条件はその運用にこそある。単位を設定することと、その単位を運用することとは鏡合わせの関係にあり、単位はそれが使われること=複製されることによってのみ単位とすることができるのである(反対にそれを使うためには基準を設定する必要がある)。もし私たちがデュシャンの停止原器を手に入れることができれば、当然ながらそれを使い、世界を測定=複製することができる。また一方で、このとき写し取られた長さを、写し取る対象が抽象化されたものと考えることができるかもしれない。定規で引かれた線は、定規の性質を保存はしているが、しかしそれは定規ではない。同じようにブラッチオであればそれを用いることは「腕」を想起すること、またその腕に隣り合うものを置くこと、あるいは右腕の隣に不在の左腕を描くことに他ならない。単位とはその起源となる身体や物、あるいは現象と、他なるものとの輪郭を作り出す力の境界、そのことの原器なのではないか。

作品とは、ちょうどピエロやデュシャンがしたように、ある単位を適用させることによって積層と拡張を繰り返しながら作り出される場である。しかし、それは必ずしもメートルのように広く流布された公共的単位によって統べられるのではない。それは、ある単位定義を別の単位定義に依存させながら、複数(少なくとも二つ以上)の単位原器を考案し、それぞれの仕方によって適用させていくことで導き出される、異なる力が干渉し重なり合う断面であり輪郭である。原器が保存するモメントが作り出す凹凸と不一致。それらをどのようにして、ひとつの場に治めることができるだろうか。私たちは、何かを作ることによって世界を複製し、その不連続で不均一な原器のなかから、有り得べき、隣り合う片腕を探すのである。



fig.1
ピエロ・デッラ・フランチェスカ Piero della Francesca
《キリストの洗礼》 *The Baptism of Christ*
1455年頃 板にテンペラ 167×116cm
ロンドン／ナショナル・ギャラリー蔵
Public domain



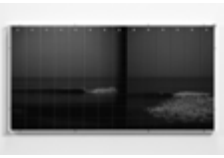
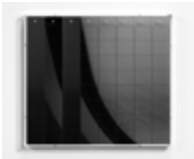
fig.2
マルセル・デュシャン Marcel Duchamp
《三つの停止原器》 3 *stoppages étalon* (3 *standard stoppages*)
1913-1914年(レプリカ 1964) 木、ガラス、カンヴァスにペイント
ロンドン／テートモダン蔵
©Succession Marcel Duchamp/ADAGP, Paris and DACS, London 2020
©Tate 2020

*1 『岩波 世界の美術 ピエロ・デッラ・フランチェスカ』M・A・レーヴィン著／諸川春樹訳|岩波書店|2004|p.101

*2 『マルセル・デュシャン全著作』ミシェル・サヌイ編／北山研二訳|未知谷|1995|p.333
デュシャンは子午線による定義を基に制作されたメートル原器に含まれる恣意性、あるいは単位という概念のレディメイド性に着目して《三つの停止原器》を制作したのではないだろうか。なお、1796年から97年にかけて制作されたメートル原器は、メートル単位を啓蒙するためにパリ市中16箇所に設置され、現在でもそのうちの2箇所が残っている。その実物をデュシャンが見ていたであろうことは想像に難くない。

大塚 聡
OTSUKA Satoshi

1970年、福島県生まれ。1994年多摩美術大学美術学部卒業。美術作家。写真、映像、インスタレーションなどのメディアを用いた作品を制作。2003-04年、財団法人ポーラ美術振興財団在外研修制度にてベルリンに滞在。2003年、アーティスト・イン・レジデンス FIH (Field Institute Hombroich) ドイツに参加。主な個展に、「Stereo Landscape」(Sprout Curation、神楽坂／東京、2020年)、「Untitled (Seeing Time)」(ample gallery、神谷町／東京、2017年)、「代官山フォトフェア 2016」(hiromiyoshii roppongi プース、代官山／東京、2016年)、「残光 ―Afterglow」(Maki Fine Arts、東京、2016年)、「Timeless Puzzle」(hiromiyoshii roppongi、東京、2013年)、「Fragment」(旧小林秀雄邸 鎌倉／神奈川、2009年)など。主なグループ展に、「AMB／媒質としてのアンビエント」(Sprout Curation、東京、2019年)、「引込線／放射線」(2019-2020年)、「夢であいましょう ―See me in the dream」(Sprout Curation、東京、2011年)、「瀬戸内国際芸術祭 2010」(福武ハウス、瀬戸内、2010年)、「“Mirage” 大塚聡／逢坂卓郎 ー二人展」(St. Elisabeth-Kirche, Berlin, ドイツ、2003年)、「The ESSENTIAL」(千葉市美術館、2002年)など。



6	<i>Passage</i>	Mixed media 230×670×450 mm each of two parts	2008
7	<i>Puzzle #31</i>	Cibachrome, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 443×495 mm	2016
8	<i>Puzzle #32</i>	Cibachrome, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 443×495 mm	2016
9	<i>Puzzle #37</i>	Cibachrome, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 443×854 mm	2016
10	<i>Transmittance</i>	Lambda print on transparency film, framed Frame size 440×440 mm	2019
16	<i>Puzzle #35</i>	Cibachrome, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 443×253 mm	2016
17	<i>Puzzle #43</i>	Lambda print, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 440×226 mm, each	2020
20	<i>Puzzle #44</i>	Lambda print, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 315×315 mm	2020



21 *Puzzle #45* Lambda print, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 315×315 mm 2020



22 *Puzzle #46* Lambda print, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 315×315 mm 2020



23 *Puzzle #47* Lambda print, mounted on acrylic glass rulers, acrylic frame 315×315 mm 2020



29 *Transmittance* Lambda print on transparency film, framed Frame size 440×440 mm 2019

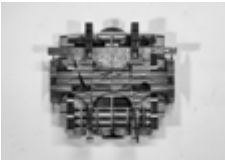
川越 健太
KAWAGOE Kenta

1982年、神奈川県生まれ。2008年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。美術作家、グラフィック・デザイナー、写真家。写真を主なメディアとして扱い、作品が持つ形式性や造形言語を探索し、制作している。2018年、ロンドン／東京 Y-AIR エクスチェンジ・プログラムにてロンドンで滞在制作。主な個展に、「Cloud Study」(ロンドン芸術大学 CSM校、キングス・クロス／ロンドン、2018年)、「Landscapes」(遊工房アートスペース、荻窪／東京、2018年)、「いくつかの現れ」(リスト・デベロップメント株式会社、田町／東京、2017年)など。主なグループ展に、「アイミタガイーロンドン／東京 Y-AIR エクスチェンジ・プログラム5周年記念展」(旧平櫛田中邸、上野／東京、2019年)、「虚構のはずれ」(關渡美術館、台北／台湾、2019年)、「交叉域」(蘇州金鶏湖美術館、蘇州／中国、2019年)、「Polka Dot — Exhibition by Assitants at GAP展」(銀座三越 7F ギャラリー、銀座／東京、2017年)、「in PROGRESS」(ゼンダイ・コンテンポラリー・アートスペース、上海／中国、2015年)、「桐生再演 16」(旧金谷レース工場、桐生／群馬、2010年)など。

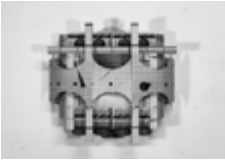




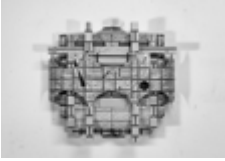
5-1 *Paper relief 18-1*
(P.d.F, SSetSPM) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 270×300×85 mm 2020



5-2 *Paper relief 18-2*
(P.d.F, SSetSPM) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 270×300×85 mm 2020



5-3 *Paper relief 18-3*
(P.d.F, SSetSPM) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 270×300×85 mm 2020



5-4 *Paper relief 18-4*
(P.d.F, SSetSPM) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 270×300×85 mm 2020



5-5 *Paper relief 18-5*
(P.d.F, SSetSPM) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 270×300×85 mm 2020



5-6 *Paper relief 18-6*
(P.d.F, SSetSPM) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 270×300×85 mm 2020



5-7 *Paper relief 18-7*
(P.d.F, SSetSPM) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 270×300×85 mm 2020



12 *Paper relief 17-1*
(Study for P.d.F, The Flagellation /
Above right of three split up
or Summer woods as the
background) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 265×235×75 mm 2019



13 *Paper relief 19-1*
(Study for P.d.F, The Flagellation /
Bottom right of three split up or
Three drapes) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 280×220×85 mm 2020



15 *Printmark 1/2/3/4/5/6/7/8/9* Aquatint
Paper
310×225 mm 2020



18 *Paper relief 17-2*
(Study for P.d.F, The Flagellation /
Above right of three split up
or Summer woods as the
background) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 265×235×75 mm 2019



19 *Paper relief 19-3*
(Study for P.d.F, The Flagellation /
Bottom right of three split up or
Three drapes) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 280×220×85 mm 2020



25 *Paper relief 17-3*
(Study for P.d.F, The Flagellation /
Above right of three split up
or Summer woods as the
background) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 265×235×75 mm 2019



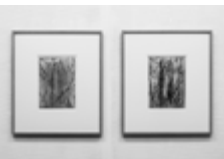
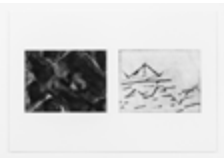
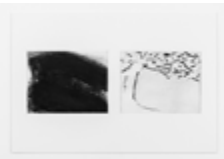
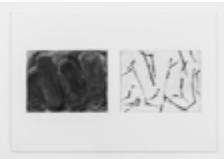
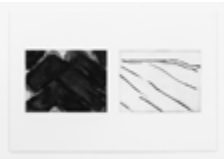
26 *Photographs for the Photography* Inkjet print, mounted on aluminum
compound board, laminated
640×450 mm, each 2020



30 *Paper relief 19-2*
(Study for P.d.F, The Flagellation /
Bottom right of three split up or
Three drapes) Inkjet print, mounted on paper box
by staple approx. 280×220×85 mm 2020

空谷 圭章
MOKUTANI Yoshiaki

1980年、静岡県生まれ。2003年明星大学造形芸術学部造形芸術学科卒業。2005年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻版画コース修了。版画家。銅版画を用いて作品を制作。主な個展に、養清堂ギャラリー（銀座／東京、2006、2010、2012、2014、2016、2018年）、HIROSHIGE-Gallery（恵比寿／東京、2017年）、ギャラリー山口（京橋／東京、2005、2008年）など。主なグループ展に、「on paper without borders」(Hieronim Lopacinski Provincial Public Library、ルブリン／ポーランド、2019年)、「the fifth mezzotint festival in Ekaterinburg」(EKATERINBURG MUSEUM、エカテリンブルグ／ロシア、2019年)、「版画のコア」(文房堂ギャラリー、上野／東京、2017年)、「Definition of Cool」(養清堂ギャラリー、銀座／東京、2017年)、「CWAJ現代版画併設展 ー静穏を求めてー」(東京アメリカンクラブ、東京、2011年)、「空は晴れているけど」(ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション、東京、2008年)、「アートスタジオ五日市レジデンス 招聘作家展」(アートスタジオ五日市、東京、2006年)、「Their Print Exhibition 中日版画展」(上海・半島美術館、上海／中国、2005年)など。



1	<i>Intermittently flowing hills</i>	Aquatint, drypoint Paper 360×560 mm	2020
2	<i>In the windbreak</i>	Aquatint, drypoint Paper 360×560 mm	2020
3	<i>Wind crest and pine</i>	Aquatint, drypoint Paper 360×560 mm	2020
4	<i>Rain on the lake</i>	Aquatint, drypoint Paper 360×560 mm	2020
11	<i>Untitled</i>	Drypoint, chine-collé Paper 420×640 mm	2018
14	<i>Landscape from the stern</i>	Aquatint, drypoint Paper 640×990 mm	2020
24	<i>Untitled</i>	Aquatint, drypoint, chine-collé Paper 530×380 mm, each 2 parts	2020
27	<i>Untitled</i>	Aquatint, drypoint Paper 380×560 mm	2017



28	<i>In the pine forest</i>	Aquatint, drypoint Paper 640×990 mm	2020
----	---------------------------	---	------



各作家3点・計9点が収められた作品集 || Edition. 10 / A.P. 3

半田 滋男 はんだ・しげお
和光大学表現学部 教授

些か乱暴な言い方になるが、表現のありかたを、ある基準で大別してみようとする。

まず、そのみで個物として意味を持ち、存在しようとする物質的作品。一般に考えられる古来の絵画や彫刻はそのようなものだ。そして、もう一方は、触媒として作用しようとする作品である。後者の場合、作用する目的であるもの、則ち作品の実体は、光景、時間、思考のように、物質のかたちをとらぬ場合が多い。

触媒として存在する作品は、古来の宗教芸術から現代芸術に至るまで文学、音楽など殆どの分野の芸術に共通してみられるのだが、森羅万象のうちの幾許かを再解釈して表象化を試みる際の、その最終的解釈は受容者の側に大きく託してしまうことが多いようである。

アーティストたちは、表現主体という特権的な存在であろうとするのではなく、われわれ受容者と同じ側に立ち、無名の半透明な存在として存在し、それでいて通常の意識では看過してしまいがちな同時代の細部や、光景のなかの些末な事象を観察し、掘い上げて眼前に呈示しようとする。すなわち、同時代、現実、思考、些末な光景に、場合によっては些かの編集を加え、我々に思索の素材として提供する。

ただその際に表現者たちは、屢々、彼ら独自に設定した、多くの場合は規則的な計測法を思索の方法論として添えようとする。

例えば、古来の文学はいずれの文化圏に於いても韻文という、一見不自由なひな形定規を用いてその型に嵌め、定型化することによって、人心の奥底にリズムカルに反響する効果を得てきた。また宗教絵画では、儀軌により諸仏をある程度以上緻密に配置することで密教の教義を可視化しようとした両界曼荼羅、一定の秩序でイコノスタシスに居並ぶ東方正教のイコンたちも、整然と一定の計測軸に従うことを当為としながら、それによって宗教概念を視覚化しよう意図されている。さらに宗教美術に限らぬ絵画一般に於いても、文化圏毎にことなりはするが、それぞれの必然で開発された遠近法という規矩に当て嵌めることで、対象物の役割を効果的に演出してきている。

近代に至り表現が宗教から解き放たれ、自由律が叫ばれてから、表現者たるアーティストの一部は、ことに触媒を用いて概念を表象しようとするアーティストたちは、対象を計測する手段を自ら模索し、その手段を援用しながら対象を再呈示することで受容者の記憶により効率的に留まろうとしているのではないだろうか。言い換えればシステムチックに規則化することで、そのための計測方法を用いてこそ、可視化され、明瞭に明らかになってくるものごとがある。

現代に至り、思想のみならず自然科学、社会科学とも融合しながら概念化しつつある芸術とは、同時代のみならず未来までをも計測しようとしはじめたが、その中にも計測と定型化が有効に作用している例はいくらでもある。

例を挙げるならば、タイポロジー(類型学)の手法によるドイツの写真家、ベッヒャー夫妻とその後継者たちは、単一のモチーフ、例えば給水塔や工業倉庫を規則的に撮影したモノクロ写真をグリッドに従って規矩的に配置することで、文明批評に加担してきた。また代表的なコンセプチュアルアーティストである河原温は、ある単位時間、例えば特定の24時間のうちに限定的に起きた出来事、自らの移動の痕跡や、その単位時間内の来訪者のリストを、極力無機質に可視化することで、私たちの想像力を著しく喚起する。

ここに居並ぶ3名のアーティストたちは、この企画に「隣り合う片腕 The traced line」と命名し、ある計測単位を表現に適用させるという行為の意味について意識的である点を共通項として持っているようである。

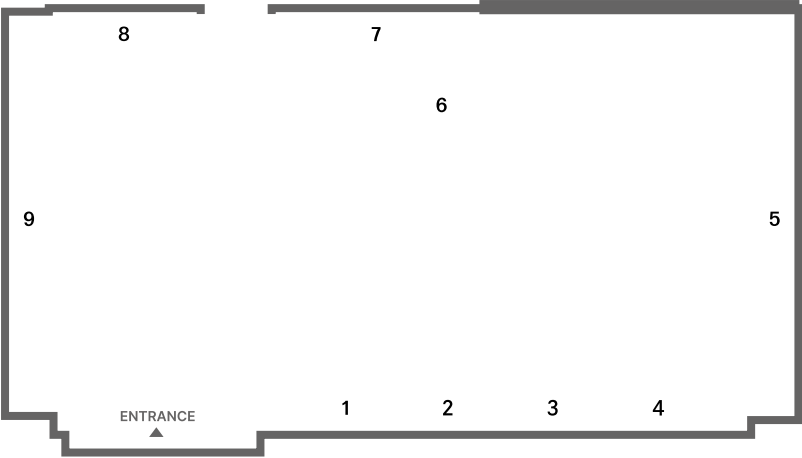
そのうち大塚聡は3人の中では最も活動歴の長い作家であるが、その計測方法には、一連のコンセプチュアルアーティストの継承者に位置させることが相応しい。数パターンある作品のうち今回も展示されている反射率の高い特殊ガラスと鏡面を数枚重ねた向こう側から点光源が往来する《Passage》は、長らく取り組む、時間が空間に干渉する作品だ。また《Puzzle》では風景写真の前景に実物の定規を密着させ、否応なく光景は未知の存在が制御する時空の下にあることを想像させる。

川越健太の主要な出品作《Paper relief 18》では、建築物の外壁タイルやサイディングウォールを撮影したプリントを、紙製の支持体に取り付け、それを壁面に規則的に並べているが、じつに平凡な日常的な建材を一旦解体した上で本来の文脈から完全に切り離し、二重の意味を賦与しているかのようである。また近郊住宅地で撮影したのであろう複数枚の風景写真プリントを壁面上に一定の構図で配置し、そしてその状態を更に撮影してプリントを複数併置する《Photographs for the Photography》は、写真プリントの自己定義を更に定義する入れ子構造の様相をみせている。

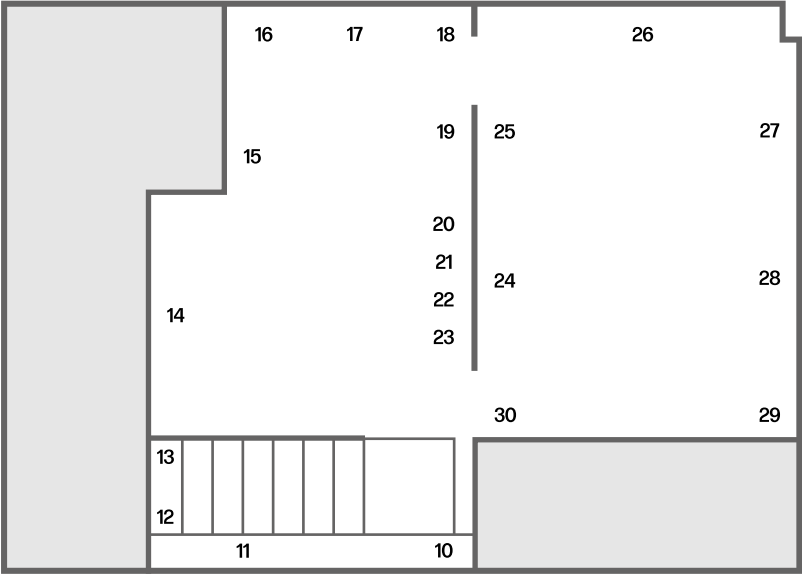
また空谷圭章の出品作《Landscape from the stern》は、複雑に混濁した色調の抽象的イメージのアクアチント、同じイメージから抽出されてはいるが、極端に簡略化されたドライポイントの線描を同サイズで1枚の画面に併置する。ひとつの想像力を、そこから派生する二種の表象で規定しているかのようである。

いずれの作家も、対象が不可知であることを容認しながら無限に不可知であるそのこと自体を証明しようとしているようである。根拠のない明瞭さに偽られてきた同時代に希有な方法を探っている。

| 1F |



| 2F |



/Installation View/

The traced line















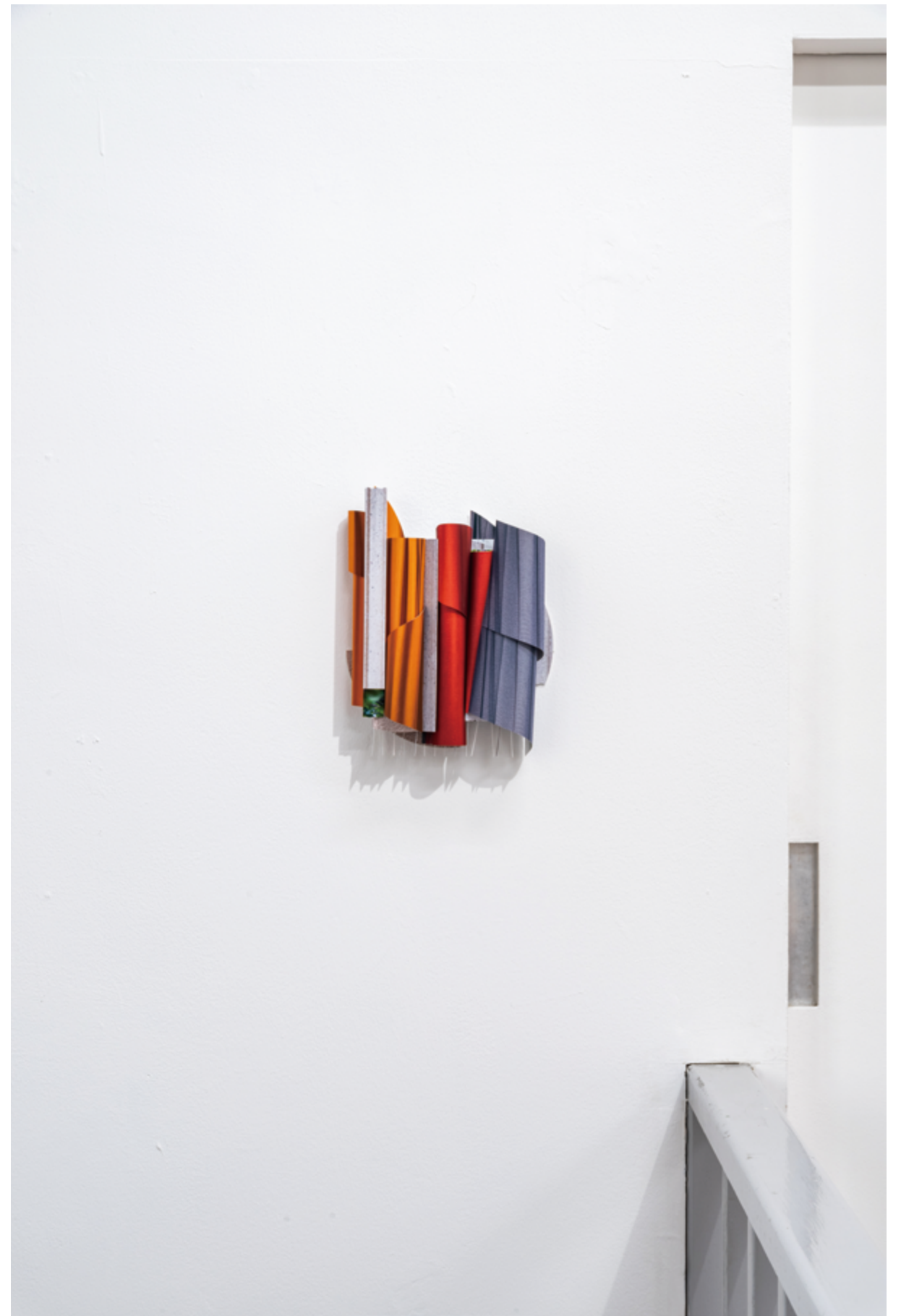








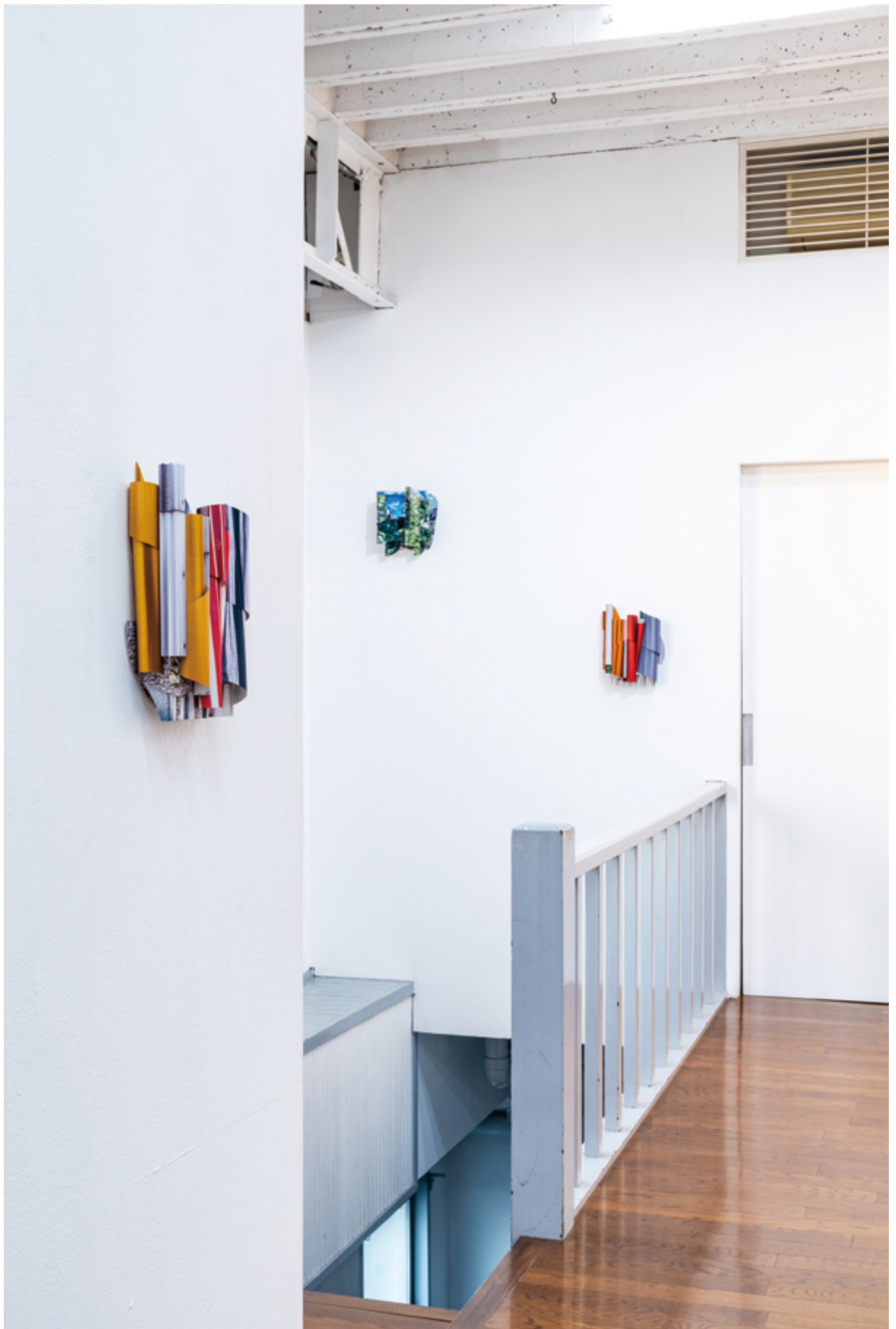












展覧会

隣り合う片腕

会期 | 2020年11月3日|火・祝|——11月29日|日|
12:00——19:00 ※月・火休廊(11月3日・23日を除く)

会場 | 遊工房アトスペース
東京都杉並区善福寺3-2-10

企画 | ALABORA

記録集

発行日 | 2021年1月31日

編集 | ALABORA

デザイン | 川越健太

印刷 | 渡辺印刷株式会社

発行 | ALABORA

Exhibition

The traced line

November 3——29, 2020

12:00——19:00

Closed on Mondays and Tuesdays except November 3rd and 23rd

Youkobo Art Space

Zempukuji 3-2-10, Suginami-ku, Tokyo, 167-0041 Japan

Planned by ALABORA

Document Book

January 31st, 2021

Editing: ALABORA

Design: Kenta Kawagoe

Printing: Watanabe Printing Co., Ltd.

Published by ALABORA

a-labor-a.com

杉並区新しい芸術鑑賞様式助成金

東京藝術大学若手芸術家支援基金 アート・ルネッサンス支援プログラム

a-labor-a.com

The traced line
Planned by ALABORA
Satoshi Otsuka
Kenta Kawagoe
Yoshiaki Mokutani
2020-2021, ALABORA

